



情報・システム研究機構 本部

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル2階
<https://www.rois.ac.jp/>



国立極地研究所

〒190-8518 東京都立川市緑町10-3
<https://www.nipr.ac.jp/>



国立情報学研究所

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター
<https://www.nii.ac.jp/>



国立遺伝学研究所

〒411-8540 静岡県三島市谷田1111
<https://www.nig.ac.jp/>



データサイエンス共同利用基盤施設

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3 データサイエンス棟
<https://ds.rois.ac.jp/>



大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

Inter University Research Institute Corporation
Research Organization of Information and Systems

2022 – 2023

国立極地研究所

National Institute of Polar Research

国立情報学研究所

National Institute of Informatics

統計数理研究所

The Institute of Statistical Mathematics

国立遺伝学研究所

National Institute of Genetics

データサイエンス共同利用基盤施設

Joint Support Center for Data Science Research



情報時代の新しい研究を拓き 現代社会の課題をイノベーションにより解決します

大学等との連携・協働、そして発展へ――



機構長 藤井 良一

当機構は大学共同利用機関である国立極地研究所（NIPR）、国立情報学研究所（NII）、統計数理研究所（ISM）、国立遺伝学研究所（NIG）に加え、データサイエンス共同利用基盤施設（ROIS-DS）から構成され、21世紀の重要な課題である生命、地球、自然環境、人間社会など複雑な現象に関する問題を「情報」と「システム」という視点から捉え直すことで、データサイエンスにより分野の枠を越えた融合的な研究を行い、現代の諸問題の解決を目指し活動しています。

大学共同利用機関は、各研究分野における「全大学のための共同利用の研究所」として、個々の大学では整備・維持が困難な最先端の大型装置や大量の学術データ、貴重な資料や分析法等を全国の研究者に無償で提供し、大学の枠を越えた共同研究を推進する我が国独自の研究機関です。

研究活動のみならず、次世代の研究者育成にも取り組んでいます。国立大学法人総合研究大学院大学の専攻を構成する基盤機関として、当機構の最先端の研究環境を活かし、研究と教育を一体化させることにより、研究所の教員の多くが参画して大学院教育を実施しています。これに加えて、特別共同利用研究員制度や連携大学院制度により国内外の大学の大学院生への研究指導も行っています。

第4期中期目標・中期計画による取り組み

当機構は2004年の法人化以降、共同利用・共同研究機能の向上や新たな学問領域の創成に向けた戦略的な取り組みを進めてきました。

2022年度からは新たに策定した第4期中期目標・中期計画に基づいた活動がはじまります。ここでは、今後6年を通じて取り組む中期計画について、そのいくつかをご紹介いたします。

データサイエンス・オープンサイエンスの推進

当機構は、地球システムや生命システム等に関するデータを生成する機能、データを分析し解釈する機能及びデータを安全に運び管理・提供する機能を総合的に備えており、それら3つの機能を複合的に編み上げることにより、データサイエンスやオープンサイエンスを先導的に推進します。国内外の学術動向や社会的要請を踏まえ、各分野の中核拠点となる世界最先进の学術研究を推進するなど、その成果を基礎としながら、異分野融合や新領域開拓に向けた課題発掘を進め、地球環境変動やSDGs等の社会課題や地球規模課題の取り組みへの貢献を目指します。

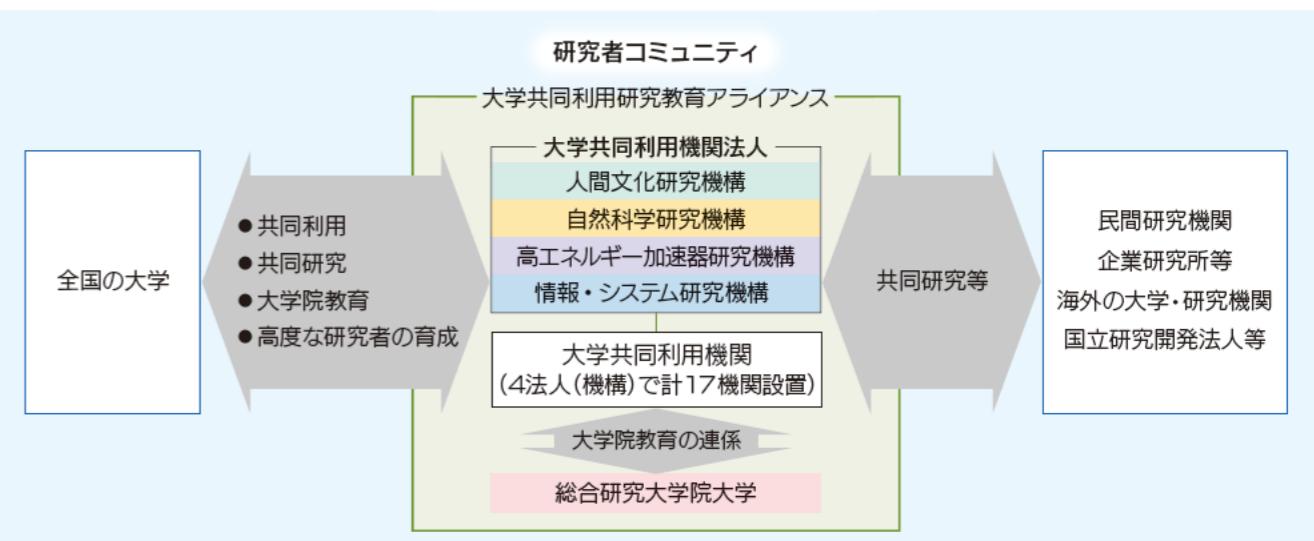
- データサイエンス推進を基軸として第3期に設立したデータサイエンス共同利用基盤施設を異分野融合・新領域開拓の要と位置づけ、遺伝研、情報研をはじめ機関内外の機関との連携の下、DS施設にバイオデータサイエンスの基盤となるオールジャパンの「バイオデータ研究拠点（BSI : BioData Science Initiative）」を形成する。
- 地球温暖化に伴う地球規模課題である北極域の急激な海水・環境変化について、国際的な先端レベルの調査研究で分析し、その高精度情報を環境保全分野や産業界、国際ルール形成を目指すステークホルダーに提供する。これらの活動によりSDGsの目標に掲げられている「気候変動」とその影響に立ち向かうため、多様な主体の参画を促す環境を醸成し、持続可能な北極社会の構築に貢献する。

共同利用・共同研究による各種リソースの提供

大学共同利用機関としての大きな役割である共同利用・共同研究については、学術情報基盤の整備、極域観測事業の実施、大規模統計モデリングに適した統計科学スーパー計算機の提供、バイオリソース・ゲノム情報の利活用を進めるとともに、データ駆動型サイエンスによる異分野融合や新領域開拓を推進します。

2022年3月には人間文化研究機構、自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、総合研究大学院大学と共に「一般社団法人 大学共同利用研究教育アライアンス」を設立しました。異分野連携のさらなる強化、国際化や産学連携の一層の促進、教育機能の拡充などを進め、同時に大学の研究力や機能の強化に対する貢献の拡充も図ってまいります。

中核的研究拠点としての大学共同利用機関法人



- 国立大学法人等におけるサイバーセキュリティ基盤の質の向上を図るため、「大学間連携に基づく情報セキュリティ体制の基盤構築（NII-SOCS）」事業を大学間の緊密な連携に基づいて推進する。

サイバー攻撃の検知等に関しては、研究所の研究成果を適宜適用することで予兆把握・検知・未然防御・被害緩和能力を向上させ、参加機関に迅速かつ有用な情報を提供する。

- これまでに創出した先端的な研究手法や研究リソースを施設の利用、研究技術の指導等を通して全国の学術機関及び民間の研究機関に提供し、高度化かつ複雑化する遺伝表現型の解析を支援するため、新たな組織整備を行い国内の研究の高度化や産学連携を活性化させる。バイオデータ研究拠点と連携して、データサイエンスの研究成果を実験的に検証する場を提供する。

- 環境負荷低減等の革新的特性を持つ新材料の探索のための高分子物性データベース等、スーパコンを活用した次世代シミュレーション・統計的機械学習・データ駆動型研究に資する多様なデータ基盤の整備を行う。データベース構築のためのソフトウェア提供も行う。

教育活動への貢献

総合研究大学院大学等からの大学院生の教育をはじめ、各分野の次世代を担う人材育成に加え、大学や産業界等からの要請が極めて高いデータサイエンス人材を組織的に育成します。

- ビッグデータやAI活用の社会的浸透に伴い、全国の大学で急拡大しているデータサイエンス教育の体制整備に資するべく、「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」の拠点校、「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開」の協力校、「データサイエンス系大学教育組織連絡会」とも連携し、大学等における統計学の教育研究を担う若手中核人材（統計エキスパート人材）の育成を行うとともに、大学のデータサイエンス研究力強化のために、DS施設で第3期に立ち上げたデータサイエンス教員養成パイロット事業を、DS施設と統数研との連携の下で第4期では本格事業とする。

※第4期中期目標・中期計画の全文は、こちらからご覧ください。
https://www.mext.go.jp/content/20220330-mxt_hojinka-000021472_104.pdf



学理を究め、最先端の研究を推進する研究所・施設

極域科学、情報学、統計数理科学、遺伝学それぞれの分野をリードする各研究所を紹介します。

NiPR 国立極地研究所

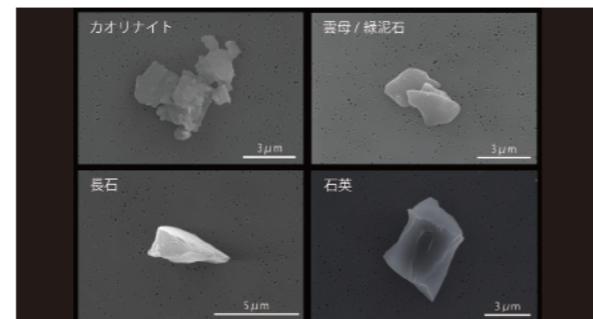
National Institute of Polar Research

日本の極域科学研究と 極地観測の中核機関

南極と北極は地球環境の変化に敏感に反応し、またその変化は人類の将来にも大きな影響を与えます。極地研は、南極や北極でのフィールド調査等で得られる観測データを基に、地球惑星科学や生命科学の視点から先端的な研究を推進し、学術的な成果を得るのみならず、地球規模課題の解決に貢献します。また、海洋資源および陸域生態系の保護等に関する研究・調査を通じてSDGsの達成にも貢献します。さらに、南極地域観測事業と北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)では実施中核機関を務め、南極と北極にある観測基地・拠点や、観測施設・設備、観測船などのプラットフォームを全国の研究者に提供しています。



アザラシに記録計を取り付け、海水温や塩分を観測。船では近づけない秋から冬の昭和基地周辺の海洋環境を明らかにした



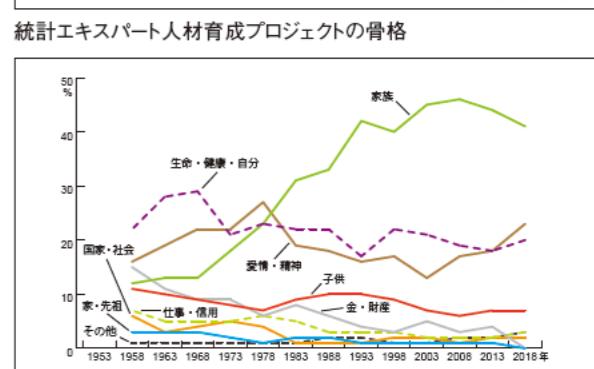
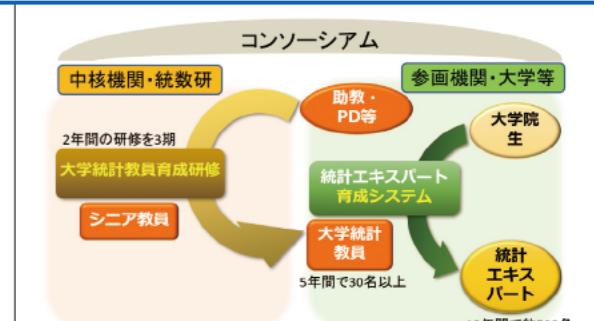
グリーンランドのアイスコアに含まれる過去100年分のダストの起源を解明。過去の環境変動を解明する上での重要な手掛かりとなる

統計数理研究所

The Institute of Statistical Mathematics

統計数理科学の総合研究と 統計人材の育成

大規模・複雑なデータに基づく統計数理科学の中核機関として、先端的な研究を推進し、国際的評価の高い研究を持続的かつ創造的に行ってています。スーパーコンピュータの共同利用による多様なデータ基盤の整備・ソフトウェアの提供に加え、コミュニティからの要望やSDGs達成、環境負担低減等の社会の要請に応えるため、NOE(Network Of Excellence)形成事業を通じて産官学と幅広く連携する一方、様々なレベルの統計思考に関わる人材育成プログラムを展開しています。また、医療統計データサイエンス人材の育成や、全国の大学で急拡大しているデータサイエンス教育の体制整備に資するため、統計学の教育研究を担える若手の統計エキスパート人材の育成にも注力しています。



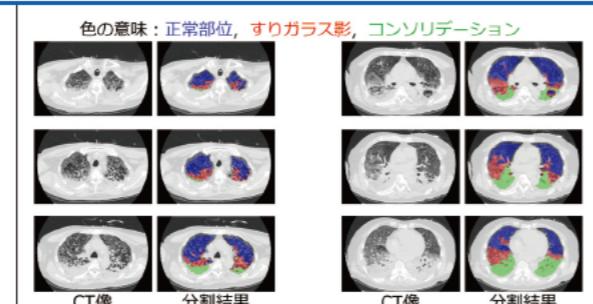
65年以上に渡り統研が調査・分析を続けていた「日本人の国民性調査」における「一番大切なものは何か」のグラフ

NII 国立情報学研究所

National Institute of Informatics

情報から知を紡ぎだし 未来価値を創成

情報学という新しい分野での「未来価値創成」を使命とする、国内唯一の学術総合研究所として、基礎論から人工知能、ビッグデータ、IoT(Internet of Things)、情報セキュリティといった最先端のテーマまで幅広い研究を推進しています。また、次世代学術研究プラットフォームとなるSINET6等の運用に加え、研究データの管理・公開・検索を可能とする研究データ基盤NII-RDC(NII Research Data Cloud)の事業展開を推進するとともに、オープンサイエンス研究データ基盤や大学間連携に基づく情報セキュリティ体制基盤を構築しています。さらに国内外の大



医療ビッグデータクラウド基盤のAI自動診断研究による、新型コロナウイルス感染症肺炎を自動分類するAIの診断結果の例



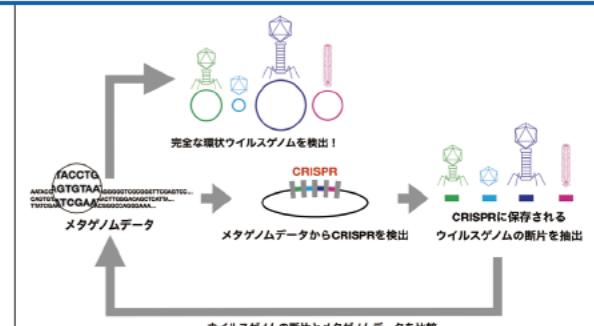
2021年度オープンハウスでは、研究成果発表のほか、小中高生向けイベントのサイエンスパークなどもハイブリッドで開催

NIG 国立遺伝学研究所

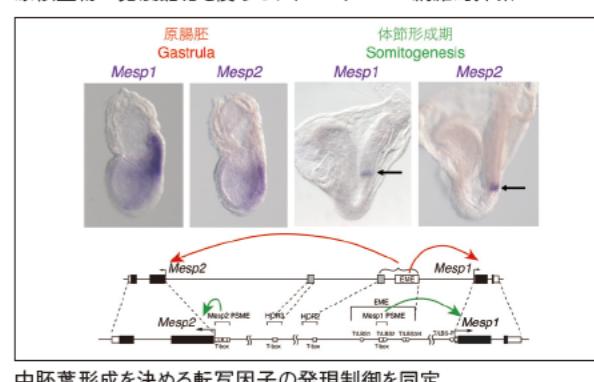
National Institute of Genetics

すべての生命は 遺伝情報が基盤となる

遺伝情報とは生命の源であり、次世代へ受け継ぎながら変化していきます。この遺伝情報という切り口から生命の謎に挑戦するのが遺伝学です。遺伝研は、細胞機能、発生・分化、進化・多様性、ゲノム・生命情報などについて最先端の研究をおこなうとともに、生命科学の新たな研究分野の開拓に挑戦しています。さらに、大学共同利用機関としてゲノム解読／生命情報データベース／バイオリソース事業を展開することで生命科学に関わる学術・産業コミュニティに遺伝学の先端的な共同利用・共同研究の場を提供しています。また、情報研とDS施設との連携により、バイオデータサイエンスの基盤となる「バイオデータ研究拠点(BSI: BioData Science Initiative)」を形成し、全国的な拠点としての活動を目指します。



原核生物の免疫記憶を使ったウイルスゲノムの網羅的探索



中胚葉形成を決める転写因子の発現制御を同定

学理を究め、最先端の研究を推進する研究所・施設

データサイエンスの分野をリードする新しい研究施設を紹介します。

データサイエンス共同利用基盤施設

Joint Support-Center for Data Science Research

データサイエンスによる 知の開拓

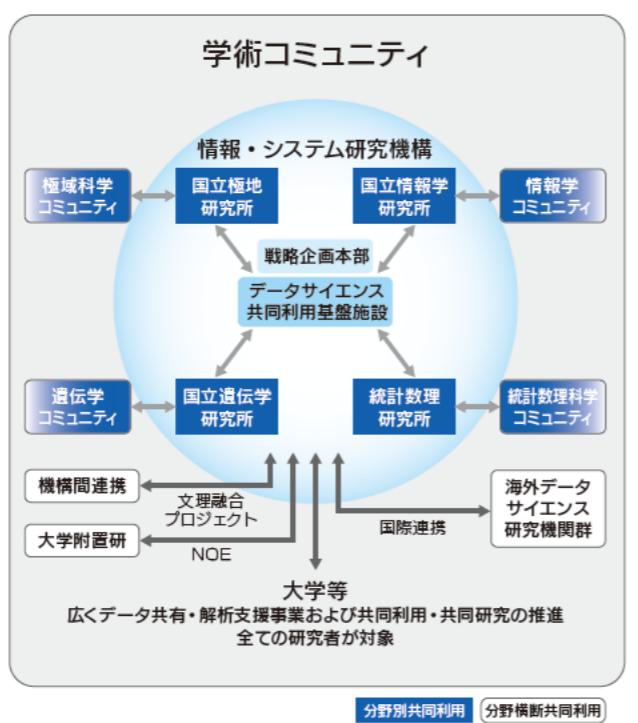
データサイエンス（データ駆動型研究）を合い言葉に、大学等との連携・協働の一層の強化を目的に、それまでの大学共同利用機関にはない新しいタイプの研究施設として2016年度に情報・システム研究機構に設置された研究組織です。DS施設では、ROISを構成する4つの研究所や、他の大学共同利用機関法人の研究所等と協力しながら、生命科学・地球惑星科学等の自然科学や社会科学・人文学との連携を目指し、新たな異分野融合・新領域開拓に関する研究活動に取り組みます。また、データ共有支援事業及びデータ解析支援事業、人材育成事業、公募型共同研究等を行い、科学の発展や社会のイノベーションの推進を支援しています。



江戸をみせたい人が公開し、江戸をみたい人が活用する、新しいタイプのデータポータル「edomi」<http://codh.rois.ac.jp/edomi/>

各研究所とデータサイエンス共同利用基盤施設との関係

4つの研究所（極地研、情報研、統数研、遺伝研）とともに、組織中央に融合的な研究を推進するためのセンターを設置するという当機構の理念に基づき、法人化以前の文部科学省令で設置された大学共同利用機関ではない新しいタイプの研究組織として、DS施設を設置しています。DS施設が中心となり、他の大学共同利用機関法人の研究所等とも協力しながら、国内外の大学や研究機関等との連携や協働が一層図られるよう、その強化を目的に活動するとともに、科学の発展や社会のイノベーションへの貢献を目指しています。2022年現在、ライフサイエンス統合データベースセンター（DBCLS）、極域環境データサイエンスセンター（PEDSC）、社会データ構造化センター（CSDS）、人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）、ゲノムデータ解析支援センター（CGI）、データ同化研究支援センター（CARA）の6研究センターから構成されています。



多様なニーズの高度化に応える共同利用・共同研究

社会的課題への取り組みや特徴的な研究活動をピックアップして紹介します。

NII SINET6—学術研究を支える 世界最速ネットワーク基盤

Society5.0時代を見据えた基盤へ

ネットワークとITの進歩がAIやIoTの急速な発展を促しており、実世界のあらゆる活動から取得したデータをサイバー空間で解析し社会生活の効率化や変革に役立てるデータ駆動型社会（Society5.0）を迎えつつあります。SINETにはそのようなSociety5.0を推進する基盤としての役割も求められるようになりました。

アップグレードされたネットワーク基盤「SINET6」

SINET6は、年々増大する研究データに対応するため、SINET5の全国100Gbps高速ネットワークを全国規模として世界最速の400Gbps超高速ネットワークへとアップグレードしました。また、IoT系研究の広汎な展開に対応するための5G高速モバイルアクセス技術、研究活動の特徴に応じた多様な仮想専用網（VPN）技術などの導入により、超高速の有線と無線が融合した革新的でセキュアな環境を提供します。そのほか大容量データを扱う大型研究施設や大学を支援するための国内接続点の増設、諸外国の研究用ネットワークとの国際接続の強化を図りました。



SINET6をネットワーク基盤として、様々な研究基盤が構築されていきます

進化する研究環境を支え続ける

情報研では、循環的な研究ライフサイクルに沿ったさまざまなステップにおいて研究活動を支援することができる総合的な基盤として、ネットワーク基盤SINETと研究データ基盤NII RDCを融合した「学術研究プラットフォーム」の機能充実を推進しています。これからも常に進化し続ける研究環境をSINETは支えていきます。

統研 機械学習で準結晶を形成する化学組成を同定

準結晶研究の現状と課題

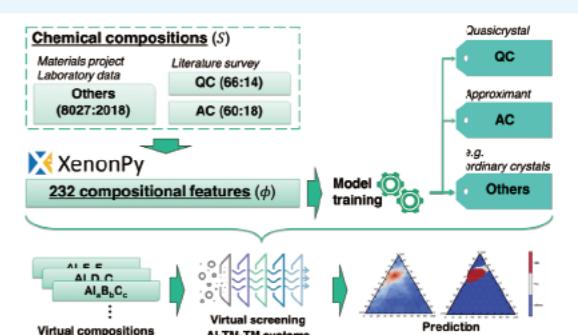
準結晶は通常の周期結晶のような並進対称性はないものの原子配列に高い秩序性がある物質です。1984年の発見以来、これまでに約100個の熱力学的に安定な準結晶が見つかりましたが、近年は新しい準結晶が発見されるペースが著しく低下しています。その原因は、準結晶の形成ルールや安定化のメカニズムがほとんど分かっていないことです。

準結晶研究におけるデータ駆動型科学の学術創成

準結晶研究におけるデータ駆動型アプローチの実践は、依然としてほぼ未踏領域です。統数研では、データ科学の解析技術を用いて新しい準結晶の発見を加速し、準結晶の形成メカニズムを理解することを目的として研究を進めています。

データ科学を駆使して準結晶の発見を大幅に加速

本研究により、準結晶を形成する化学組成を非常に高い精度で予測できる機械学習のアルゴリズムが開発されました。実際にこれまでに複数の新しい準結晶が合成さ



準結晶の化学組成を予測する機械学習（3クラス分類問題）のワークフロー。モデルの入力変数は化学組成（S）、出力は準結晶（QC）、近似結晶（AC）、周期結晶を含むその他（“Others”）を表すクラスラベル

れてきました。また、機械学習のブラックボックスモデルに内在する入出力のルールを抽出することで、準結晶の形成に関する五つの法則が明らかになりました。現在は多数の研究者がこの手法を用いて、半導体準結晶、超伝導準結晶、強磁性準結晶などの革新的な特性を持つ新物質を探索しています。

多様なニーズの高度化に応える共同利用・共同研究

最先端の学術基盤や国際連携に基づき、全国の大学や研究機関等の研究・教育を支援するプログラムを提供しています。

極地研

● 極域科学の試料解析等施設

アイスコア掘削機の貸出や掘削協力、南極ドームふじアイスコアの共同研究（アイスコア研究センター）、二次イオン質量分析計SHRIMP等を用いた隕石・岩石・鉱物の分析や試資料の提供（極域科学資源センター）、国内唯一の、大型積分球等を用いた光学機器校正（光学校正室）、極域科学大型計算機システムの利用（情報基盤センター）等を行っています。



南極のドームふじ基地で掘削されたアイスコア

共同利用 共同研究 國際活動 研究基盤



遺伝研

● 遺伝情報の解読・利用支援

大規模な遺伝情報の解析を支援するため「先端ゲノミクス推進センター」が最先端のシーケンシング技術と情報解析技術を駆使した共同研究を推進しています。膨大な遺伝情報のデータは、「生命情報・DDBJセンター」が我が国唯一のリポジトリとして収集・提供しています。また、生命科学系のデータ解析に適したスーパーコンピュータを提供し、毎年、全国130以上の機関が研究に利用しています。



南極のドームふじ基地で掘削されたアイスコア

共同利用 共同研究 ビッグデータ 受託事業



統数研

● スーパーコンピュータと情報資源

共同利用を目的に「統計科学スーパーコンピュータシステム」と「共用クラウド計算システム」を併せて、国内外のコミュニティが求める資源と環境を提供しています。統数研図書室は、我が国唯一の統計科学専門図書室として、電子媒体を含め学術誌および図書も多数揃えています。



統計科学スーパーコンピュータシステム（左）と共用クラウド計算システム（右）

共同利用 共同研究 ビッグデータ



DS施設

● 分野を問わない公募型共同研究

「ROIS-DS-JOINT」として全国の研究者等に広く共同利用／共同研究の機会を提供しており、年々新たな参加機関が増え、データ駆動型研究の支援範囲を順調に拡大しています。「一般共同研究」と「共同研究集会」の2種類があり、学生や企業の方も参加可能で、研究者ではない方も集会の代表者になれます。

センター名	種別	2017	2018	2019	2020	2021	累計
ライフサイエンス統合データベースセンター	一般共同研究	3	7	8	7	7	32
	共同研究集会	4	4	4	0	0	44
極域環境データサイエンスセンター	一般共同研究	3	7	8	7	8	33
	共同研究集会	0	1	1	0	0	2
社会データ構造化センター	一般共同研究	5	7	10	7	8	37
	共同研究集会	2	0	0	0	0	2
人文学オープンデータ共同利用センター	一般共同研究	2	4	3	4	4	17
	共同研究集会	0	3	0	0	0	3
ゲノムデータ解析支援センター	一般共同研究	3	1	3	2	4	13
	共同研究集会	0	0	0	0	0	0
データ同化研究支援センター（旧データ融合計算支援プロジェクト）	一般共同研究	4	4	5	6	6	25
	共同研究集会	2	1	1	0	0	4
採択件数・採択率	一般共同研究	20	30	37	33	37	157
	採択率	95.2%	90.9%	100.0%	91.7%	94.9%	94.6%
合計採択件数	8	9	6	0	0	23	
応募数	一般共同研究	21	33	37	36	39	180
	共同研究集会	8	9	6	0	0	23
参加機関数（採択時）	一般共同研究	43	72	74	66	78	333
うち新規機関数	一般共同研究	43	48	33	16	17	157
参加者数（採択時・べ）	一般共同研究	80	129	135	123	145	612

公募型共同研究による活動実績

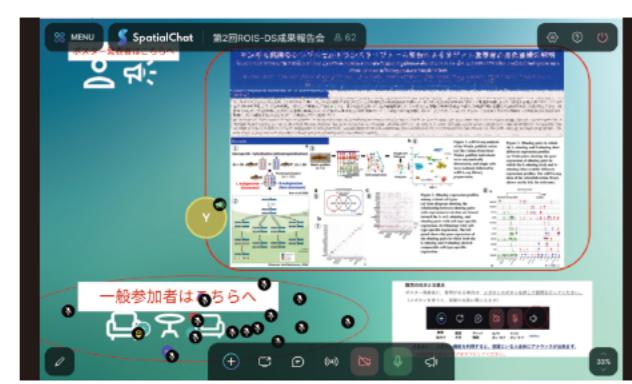
共同研究 研究基盤 ビッグデータ



DS施設

● DS施設成果報告会を開催

公募型共同研究の成果発信として開催しています。2回目となる2021年度についてもオンラインで開催しました（当日の講演動画はDS施設ウェブサイトで公開済）。第1部の招待講演、第2部の各センター活動報告に続き、第3部ではビデオチャットツールを使用したポスター発表の場を設け、共同研究の成果について活発な議論が行われました。



気軽にポスター会場を行き来できるオンラインツールの活用（SpatialChat Ltd製）

共同研究 研究基盤 ビッグデータ



遺伝研

● バイオリソースの開発と提供

生物遺伝資源センターでは、生命科学の研究に重要な実験生物系統の開発やその系統の解析を行います。国のナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）と連携することで、これらの系統を安定に維持するとともに、世界中の研究者へ提供しています。また、NBRPの情報センターとして系統情報のデータベースを構築・公開しています。



気軽にポスター会場を行き来できるオンラインツールの活用（SpatialChat Ltd製）

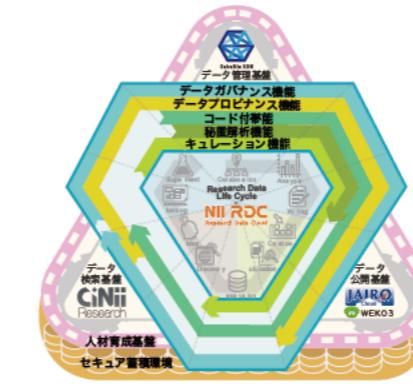
共同利用 ビッグデータ 國際活動 研究基盤



情報研

● 研究データ基盤「NII RDC」

データ駆動型科学やオープンサイエンスを推進するために開発してきた、研究データ基盤 NII Research Data Cloud : NII RDC の運用を2021年度から開始しました。大学や研究機関における研究データポリシー策定と連動して、多くの機関での利用が始まっています。新しい機能群の拡充により、日本のデータ戦略を先導する基盤として常に進化しています。



NII Research Data Cloudの全体構成図

共同利用 共同研究 研究基盤 産学連携



極地研

● 北極域大型研究計画の推進

北極域研究加速プロジェクト（ArCS II）の代表機関として、北極域に関する先進的、学際的研究を推し進め、その成果を北極海氷予測などの発信を通じて社会に還元しています。また、欧州非干渉散乱三次元（EISCAT_3D）レーダー計画の推進や、ノルウェー・スバルバル諸島にあるニーオルスン基地の運営も実施しています。



ニーオルスン基地遠景

共同利用 共同研究 國際活動 研究基盤



公募型共同研究による他機関との研究活動の展開

当機構の研究資源や人材の提供により、新たな学術研究の発展に取り組みます。

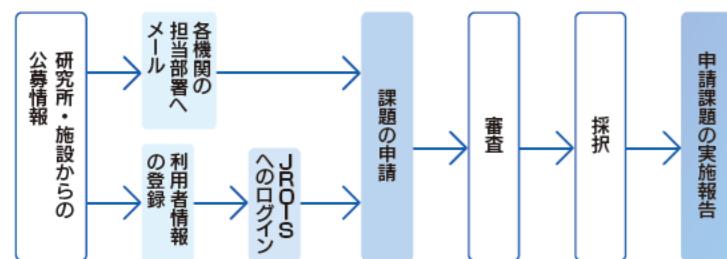
大学共同利用機関法人では、各機関それぞれの分野における先端的研究と新たな研究分野の開拓に取り組むことに加え、各大学との枠を超えた「共同利用・共同研究」の場を提供しています。

当機構では研究資源や人材を活用した4つの研究所ならびにDS施設による公募型の共同研究を推進しており、毎年2,000名以上の研究者を受け入れています。

国内外の大学や研究機関、高等専門学校、民間企業等を対象とした研究所・施設が提供する公募型共同研究に、共同利用・共同研究高度化支援システム (JROIS : Joint-Research On-line Integrated System) や各機関の公募型共同研究担当を通じて申し込みいただき、審査を経ることで、当機構の研究者と共に共同研究や研究集会を実施いただけます。

「公募型共同研究」は、研究所・施設ごとに対象や内容が異なりますので、詳細は各ウェブサイトをご確認ください。

■ 公募型共同研究の実施までの流れ



■ 共同利用・共同研究高度化支援システム JROIS



<https://jrois.rois.ac.jp/rois-dev/Rois/public/ISM>
統数研のJROISトップページ

共同利用・共同研究のお問い合わせ



国立極地研究所

共同利用、公募型共同研究（一般共同研究、研究集会、共同研究育成研究員）など
https://www.nipr.ac.jp/collaborative_research/koubo.html

お問い合わせ窓口：研究推進課 共同利用係 電話 050-5533-8644 E-mail kyodo-nipr@t.rois.ac.jp



国立情報学研究所

共同利用、公募型共同研究（戦略研究公募型、研究企画会合公募型、自由提案公募型）など
<https://www.nii.ac.jp/research/collaboration/koubo/>

お問い合わせ窓口：企画課社会連携推進室 公募型共同研究担当 E-mail kyoudou@nii.ac.jp



統計数理研究所

共同利用、公募型共同研究（共同利用登録、一般研究、重点型研究、共同研究集会）など
https://www.ism.ac.jp/kyodo/index_j.html

お問い合わせ窓口：研究推進課 共同利用係 電話 050-5533-8513 E-mail kyodo-ism@t.rois.ac.jp



国立遺伝学研究所

共同利用、公募型共同研究（共同研究、国際共同研究、研究会）など
<https://www.nig.ac.jp/nig/ja/research-infrastructure-collaboration/nig-collaboration-grant>

お問い合わせ窓口：総務企画課 研究推進係 E-mail kyodo-mail@nig.ac.jp



データサイエンス共同利用基盤施設

共同利用、公募型共同研究（ROIS-DS-JOINT（一般共同研究、共同研究集会））など
<https://ds.rois.ac.jp/crp/calling/>

お問い合わせ窓口：データサイエンス推進室 電話 042-512-9254 E-mail ds_suishin@rois.ac.jp

■ 共同利用・共同研究に関する総合的なお問い合わせについては、当機構本部事務部までご連絡ください。

<https://www.rois.ac.jp/research/coop.html>

お問い合わせ窓口：URAステーション 産学連携・知的財産室 電話 03-6402-6211 E-mail kenkyo@rois.ac.jp

情報発信・各種データ

当機構の活動を様々な形で社会へ発信しています。

» シンポジウム

機構本部では、年に1度、機構の役割や活動、最新の研究活動等について情報発信するシンポジウムを主催しています。また、2020年度よりJROIS産学連携セミナーを開催し、データサイエンスの最新動向や具体的な活用事例等を主に企業向けに紹介しています。



» サイエンスリポート

機構本部では、研究活動を分かりやすく紹介するウェブサイトサイエンスリポートを運営しています。

また、機構ウェブサイトでは、研究成果等の動画や教材を紹介する公開コンテンツ100連発！を公開中です。



» 南極・北極科学館

臨場感あふれるオーロラシアターや、昭和基地で活躍した雪上車、隕石の現物展示など、南極観測・北極観測について広く情報発信する、極地研に隣接した常設展示施設です。



» 出版物

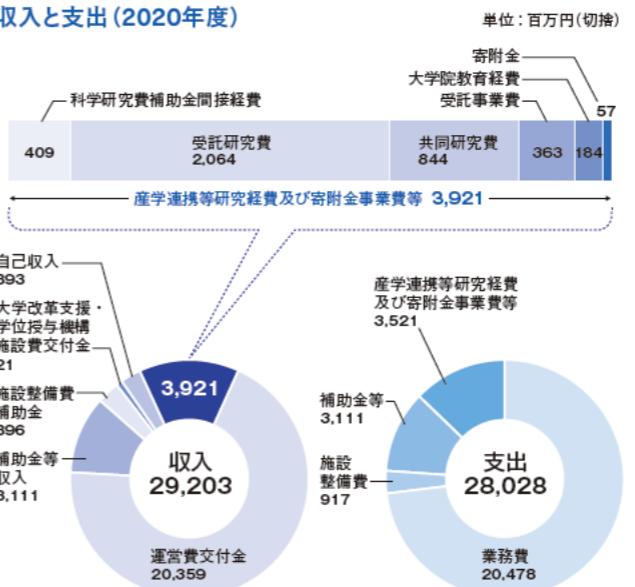
研究成果を一般の方にも分かりやすく解説した極地研ライブラリー、情報研シリーズ、ISMシリーズを市販の書籍として出版しています。

» 展示室

遺伝研の遺伝学博物館展示室では、ダーウィン『種の起源』初版本をはじめ、遺伝研と生命科学の発展を表す歴史的資料を展示しています。統数研の計算機展示室では、情報処理学会情報処理技術遺産に認定された物理乱数発生装置をはじめ、数多くの希少な機器を展示・公開しています。



収入と支出 (2020年度)



共同研究（公募型）機関数及び共同研究員数 (2020年度)

	機関数(件)	総数(人)	共同研究員の所属機関の内訳				
			国公立大学	私立大学	大学共同利用機関	公的機関	民間機関・その他
本 部	7	8	1	2	2	0	0
極 地 研	133	721	435	76	10	133	55
情 報 研	127	430	285	79	18	14	31
統 数 研	224	566	308	142	8	73	25
遺 伝 研	107	423	243	82	22	27	12
D S 施 設	66	123	52	24	0	23	9
合 計	434*	2,271	1,324	405	60	270	132

*は重複を除いた数値

研究科	専攻	基盤機関	在籍学生数(うち留学生)		学位授与数
			在籍学生数	うち留学生数	
複合科学研究科	極地科学専攻	極地研	20	(1)	3
	情報学専攻	情 報 研	99	(54)	17
	統計科学専攻	統 数 研	36	(2)	4
生命科学研究科	遺伝学専攻	遺 伝 研	37	(19)	6
	計		192	(76)	30

※在籍学生数は5月1日時点の数値